

令和7年度 第2回美術館運営協議会会議録

1 日時

令和8年2月3日(火) 午後2時～午後3時40分

2 開催場所

豊田市美術館講堂

3 出席者

〔委員〕

正村美里、高橋綾子、浅井一広、岩田雅子、木下優紀、加納里美、平野敬一、茂木明子
(以上8名) 欠席：吉留亜弥、山田百合子

〔事務局〕

高橋秀治、成瀬文浩、塚田恵理子、安川和博、都筑正敏、鈴木俊晴、成瀬美幸、大原右子、大柳良輔 (以上7名)

4 会議の経過

成瀬美術・博物部副部長あいさつ、正村会長あいさつ、出席委員の報告(8名)を確認し、本会議が成立することを宣言した。議事録署名人として、会長の他に高橋委員を指名した。傍聴人なし。

5 協議事項

事務局

(1) 令和7年度の実績報告について

- ・資料1により、企画展「モネ 睡蓮のとき」の実績について説明
- ・資料2により、企画展「アンチ・アクション 彼女たち、それぞれの応答と挑戦」の実績について説明
- ・資料3により、開館30周年記念コレクション展「星と星図」の実績について説明
- ・資料4により、教育普及事業等について説明

資料補足：「モネ 睡蓮のとき」展(以下、モネ展)で開館前に博学連携事業として生徒の受入れを実施。地域医療センター、学校に行きにくい子を支援する施設、外国にルーツをもつ子どもの団体、高校との連携を模索しており、次年度以降形にしたい。

会長

ただいまの報告についてご意見やご質問をお聞きしたい。

委員

子育て世代として、子育て関連の取組をありがたく感じている。子どもギャラリーツアー、託児サービス等の取組以外で、美術館運営に関する取組、チャレンジ精神を高校生に伝える視

点があると良いと思う。

高齢者、障がい者、ケガをしている人が気軽に観覧できるよう、椅子など休憩場所を増やす検討をしてほしい。また、音声ガイドについて海外にルーツがある観覧者もいると思うので、作品解説を AI 含め多言語化の推進を検討してほしい。

委員

拳母まつりや駐車場の借用では、美術館の協力をいただき感謝している。モネ展では自治区民を招待していただき、初めて来館した区民もおり好評だった。平成 28 年の「ジブリの立体建造物」展（以下、ジブリ展）では、自宅から自家用車を出庫させられないほど近隣が渋滞したが、モネ展では多大な配慮をいただき問題が起こらず感謝している。また、モネ展開催中における祝休日の中心市街地の歩行者通行量が昨年、一昨年と比較し、約 22,000 人から約 26,000 人に増えたと聞いている。モネ展及びエジプト展の影響ではないか。展覧会の開催が中心市街地の賑わいにつながったのは良いことだと思う。

新収蔵品について、収集用の予算が毎年決まっているのか、収集作品の選定はどうしているのか。

会長

ご質問の内容に関しては、後ほど事務局から説明する。

委員

TCCM としてはシャトルバスの運行とキッチンカーの出店に関してモネ展に協力させていただいた。シャトルバスは新豊田駅及び豊田市駅から美術館庭園を行き来する便に関わったが、発車時刻やバス停の場所など連日多くの問合せがあり、利用者も多かった。観覧者数が多い時期では、お客様からバスが満車で乗れなかった等のご意見をいただいたが、概ね好評であり、今後同様の大型展覧会が開催される際は、豊田市産業振興課及び中心市街地の関係各社と協力し改善していきたい。

また、庭園に設置されていたトイレカーがキッチンカー出店者に好評だったので、暑い時期の展覧会で出店する際は設置してほしい。

モネ展の観覧者数については、最近の夏は気温が高すぎ、テレビ等で命の危険があるとさかんに言われているため外出を控えた影響もあるのではないかと。その他、来年度以降の夏の展覧会でモネ展の経験を活かしてほしい。

委員

モネ展では開館時間前の子ども達の受け入れ、教員向け研修を実施していただき感謝している。駐車場に関して、ジブリ展の際は私は美術館近隣に住んでおり、その時は道が混んでいて自宅に帰るのもひと苦労だった。また、他館の展覧会に行く際、駐車場が混んでいて断念したこともあったが、モネ展ではシャトルバス等、様々な対策をしていただき感謝している。

委員

社会教育に携わる立場から、教育普及事業に関する意見を述べさせていただく。ヨガなど庭園、

建屋を活かした事業に感心したし、託児サービスも良い取組だと思う。

地域との連携については交流館としても強化している。交流館は28の中学校区に1つあるが、県立高校及び私立高校との連携が増えてきたことを感じており、また、高校側も地域との連携を検討している。

公益財団法人豊田市文化振興財団との連携に関連して言うと、豊田市コンサートホールと連携した事業を行った。例えば、能楽の発声方法、豊田市ジュニアオーケストラの演奏及びピアノとチェロの演奏を手頃な値段で鑑賞できる事業など。結果、下山地区及び小原地区など市街地から遠い方から、近所で本格的な演奏を聴けて嬉しいと感謝された。

その他、中学生のボランティアによる取組、カフェサービス及びマルシェを開催した交流館もあった。交流館では基本的に人が集まる催しや地域に根差した取組を行っているので、交流館の特性を活かした取組も検討してほしい。

委員

家族連れからお年寄りまで、誰でも気軽に親しめる展覧会としてモノ展は良かったと思う。先ほど事務局から説明があったが、引きこもりの子どもや外国にルーツを持つ方など、美術館に行きづらいバックグラウンドをもっている子どもたちへアプローチする機会を作してほしい。

キャリア教育について、県外の高校の事例になるが、卒業生がOBとして母校に講演に来るケースがある。登壇者の職業はアナウンサー、弁護士、医師等、社会科学系の方が多い。豊田西高校が中高一貫になったこともあり、進路選択で美術系の職業を選択する生徒が出てほしいと思う。

また、開館30周年のお菓子のよう障がい者や福祉事業者とのタイアップを継続してほしい。

職務代理

モノ展については、現場職員等の肌感覚を含め分析がしっかりされており、また市の事業として実施した展覧会ということで豊田市の各部署との協力及び連携も行っている。現場でのトラブルや駐車場対策について、アンケートでは様々なコメントがあるが、貴重な経験として今後の展覧会に活かしてほしい。

アンチ・アクション展は開幕日に観覧した。友人が何人か来ていたが、ちょうど「国際芸術祭「あいち2025」」の会期と重なっていたため、遠方から来館し愛知に2泊し豊田市美術館に行く友人もいた。豊田市美術館で鑑賞したあと東京国立近代美術館でも同展を観覧したが、作品の展示方法等で同じ展覧会でも見え方が変わることが分かった。同展のカタログについて友人と話す中で気になった点があり、カバーと一体となっている帯に記載の「新しい時代を象徴していた女性の美術家は、なぜ歴史から姿を消してしまったのか。」とある。「歴史から姿を消した」という言葉がキャッチーに使われているが、草間彌生、田中敦子、宮脇愛子らが取り上げられている。「アンフォルメル」のブームが去って彼女たちは20代後半で脚光を浴びたが、その後無視された」といった表現がされているが、それを図録のキャッチコピーに使うのはどうか。取り上げられた14人の作家が歴史から漏れた作家で、同展で始めて発掘されたような誤解を招くおそれがあると思う。豊田会場を先発として東京国立近代美術館、兵庫県立美術館と盛り上がっていくと思う。

現在開催中の高島野十郎展は、千葉県立美術館、福岡県立美術館で先に巡回があり、そのうえ作家が名古屋大学出身など、地元とのつながりがあり、メディアでの露出も増え、展覧会の魅力がじわじわ伝わっていると思う。巡回展の場合、巡回の順番は重要な要素だと思う。

とはいえアンチ・アクション展に関しては、次の時代の研究の扉が開いており、背景としては美術館に所蔵された作品がしっかり保管され、何としても次の世代に繋ぐんだという作家のご遺族も含めた強い意思だと思う。そういった意思のもと所蔵されている、ある意味幸運な女性作家の作品が残っていると考えると、今後同様の作家の新しい調査が始まるのかなと思う。それを踏まえると、作家の略歴について記載がなく、どこで生まれて何歳で亡くなったのかといったことをカタログに載せると良いと思う。ZINE も良いアイデア。カタログを買う人は展覧会の内容を復習したい方が多いと思うが、その点で若干資料性が薄いと感じた。

8月9日のコレクション展トークイベントに参加し、豊田市美術館は作家、学生とフラットで良い関係を作っていると感じた。30年前、美術館の開館時に大学生だった作家が、その中には櫃田伸也氏から影響を受けた学生もいると思うが、いま活躍しており、それらの作家の作品が美術館に収蔵されている。トークイベントにはその同級生や教え子も来ており、また、学芸員が何かを説明するというより、自然体な会話がされていた。30年という時間を経て、一世代周ったなという気がする。自分の手の届く先生たちが語る姿を見せられたのは良いことだと思う。

会長

各委員の立場から幅広い意見を聞くことができ、感謝する。各意見を要約し列挙すると、子育て、キャリア教育及び外国人観覧者への配慮について、地元を守る立場として近隣住民の視点及び中心市街地のにぎわいについて、美術館と博物館のみならず豊田市の関係部署及び中心市街地の店舗等と地域ぐるみの連携について、開館時間前に実施した学生の団体鑑賞について、この取組はなかなかできることではない。生徒の記憶に一生残るのではないか。交流館の地域に根差した取組について、家族連れから年寄りまで、さらに引きこもり、外国人及び障がい者等、様々なバックグラウンドを持つ方へのアプローチが提案された。職務代理からは、アンチ・アクション展のカタログの効果分析を含め厳しいご意見もいただいた。展覧会で女性作家を取り上げるにあたり、時代が追い付いていない側面もあると思うが、豊田市美術館がそのスタートアップになったのではないかと感じる。また、巡回展において順番は重要な要素であると感じる。

委員

アンチ・アクション展は友人と鑑賞した。短時間でさっと鑑賞したが考えさせられ、この時代の女性作家が社会に対し何を考え感じていたのかを考えさせられた。展示されていた女性作家たちは、当初男性に評価され、それに対するアンチ・アクション、そして最後は男性に集約されていくという物語、文脈があったように思う。せっかくそういった文脈があるのなら、ジェンダーの専門家等のトークイベントで解釈のぶつかり合いのようなテーマがあってもいいなと思う。

会長

今の時代、社会に出ていった女性作家、消えていった女性作家の再検討が特に先進国の美術館で進んでいるが、そのような先進的なテーマにいち早く取り組んでいる豊田市美術館だけに、様々な意見が出るのだと思うので、そういった意見を幅広く取り入れてほしい。

先ほどの収蔵品の予算及び選定方法について、事務局から説明する。

事務局

基金を使いながら毎年収集している館もあるが、当館の場合は定例で行っておらず、翌年度の予算編成時期に要求している。実績として、直近5年のうち3年はほぼ0査定である。今年度は開館30周年記念ということで予算がしたが、来年度は少なくなることが予想される。経済状況や税制面を考慮しており、質の高い作品を次世代へ引継ぐために今後も収集を続ける。また、作品の寄贈をしていただければ紹介してほしい。

事務局

(2) 美術館におけるチケット運用について

- ・資料5により、美術館におけるチケット運用について説明

委員

オンラインチケットの目的は人件費削減か混雑時の待機列緩和のどちらか。窓口のスタッフをゼロにするのか、スタッフは配置しつつ減らすのか。

事務局

窓口スタッフをゼロにするのは難しく、削減を考えている。

委員

オンラインチケット購入の際の登録、決済の手間を考慮し、何か機器を導入するのであればオンラインチケットよりも自動販売機の方がいいのでは。ただし自動販売機の固定費等よりスタッフの人件費の方が安ければ本末転倒となる。1か所に簡易的なタブレット、クレジットカードのタッチ決済が可能な決済端末及びチケットプリンターを設置し、側にサポートスタッフを配置、もう1か所にサポート無しで購入できる方用の自動販売機を設置するような、新幹線のチケット購入のような形態がいいのではないかと思う。

混雑緩和を目的とするなら、オンラインチケットの普及よりも窓口スタッフの作業プロセス削減を考えても良いのでは。

委員

目的地がはっきりしている場合はオンラインチケットを購入するが、ふらっと来館した際はわざわざオンラインで買わない。自動販売機が良いのでは。

職務代理

高大生でオンラインチケットを購入した人の年齢等をチェックしないと、悪用される恐れがある。観覧料が1,000円から800円に安くなれば高校生くらいの若年層ならささっと購入すると思う。

委員

ふらっと来館する人とオンラインチケットの相性は良いと思うが、ファストパスを兼ねるくらいのメリットがないと買わないと思う。

委員

チラシ等でオンラインチケットをもっと大きく広報すると良いのでは。高齢者層にスマホ等の操作が難しいのであれば、若年層が多く来るイベントに限って、あるいは広報媒体に限ってPRをするなど工夫をすれば良いと思う。200円割引は魅力があると思う。オンラインチケットで買っても紙の半券がもらえるようにしてもよい。

委員

美術館にはふらっと行くのでオンラインチケットを買ったことがないが、紙チケットだと手に入る半券がオンラインではないのがさみしい。ファストパスも兼ねていれば買うと思う。

会長

各委員の意見をまとめると、オンラインチケットに対する反対意見はないものの、チケットの媒体、ふらっと来館した時に対応できる窓口のあり方、オンラインチケットが普及しないのであれば自動販売機のような機器を導入することも可能性として考えられるといったものだった。

オンライン化は時代の流れであり、どんどんオンラインへ移行していくと思う。若い人たちを見ていると、チラシを持ち帰りたくない、紙もいらぬ、授業中のメモもスマホで取っているという様子である。そういった時代の流れを考えると、オンライン化は避けて通れず、いかに効率良くオンラインと紙チケットの両方のニーズを満たす形を実現するかを検討すべきだと思う。

全国的には、森美術館や東京国立博物館は予約を取らないとほぼ観覧できない状態で、21世紀美術館も同様である。一方で、招待券を持っていれば予約しなくても観覧できるとはいうものの、展示室に至るまでに並ぶのがとても大変である。東京国立博物館は自動販売機もありながら事前予約が必須で、コロナ禍以降チケット発券方法は非常に変化している。ふらっと観覧したい方のニーズは絶対にあると思うので、そういった方たちを排除しないような方法が必要である。岐阜県美術館ではオンラインチケットの導入はされていないが、モネ展のような大型展では混雑を避けるために観覧者がオンライン化や予約制を期待する要望が出てくると思うので、展覧会の内容によって運用段階を分けていく時期だと思う。

会長

ただいまの報告及び全体をとおしてご意見やご質問をお聞きしたい。

「意見等なし」

「正村会長あいさつ」

以上で協議を終了する。

会議録署名者

会長.....

委員.....